

野川河床整備に関する川づくり説明会（第4回）の議事要旨

東京都は、野川の治水対策として進める河川整備に関し、環境面等も考慮した世田谷区区間の整備概要について、川づくり説明会を開催し地域の皆様に説明させていただきました。

説明会当日の議事要旨を作成いたしましたのでご覧ください。なお、本議事要旨は、説明会時に頂いた意見や質問等を取りまとめたものであり、文言等の要約や説明を付加して作成しております。

1 開催概要

日時	令和元年7月24日(水) 18時00分～20時00分
場所	一般財団法人世田谷トラストまちづくりビジターセンター
参加人数	30名

2 主なご質問・ご意見と都の回答（要旨）

ご質問・ご意見	都の回答
樹木の点検の際は、日時などを事前に発表していただき、住民も一緒に参加できるような対応をしていただきたい。	工事後の樹木の維持管理は世田谷区が実施することになります。 ご意見については、世田谷区に伝えます。
低水路の中に生えてくる木は、無条件に伐採するのか、それとも、条件を満たしていれば残すのか。	これから生えてくる木は、河川管理上支障となるため伐採する管理方針です。
伐採が決定した際は、説明会をするのか。	説明会を行う予定はありませんが、診断の結果や処置方法については、何らかの方法で周知を行う方が良いと考えています。 ご意見については世田谷区に伝えます。
昨年度の小田急線上流から神明橋上流区間の工事では、野川の右岸のみを掘削したとの事だが、左岸の掘削を行わなかった理由を教えてください。	小田急線高架付近までは、右岸と左岸も同じように掘削を行い、河道断面を広げました。 しかし、小田急線から上流の区間は、左岸(成城側)からの湧水が多くみられるなど、特に豊かな自然環境が形成されており、現況の状態を残してほしいという声が多くありました。 左岸側の自然を保存するため、喜多見側の緩やかな護岸形状などを考慮し、右岸(喜多見側)の掘削により必要な河道断面を確保することとしました。なお、特に掘削を行っていない左岸側(成城側)が治水上問題があるわけではありません。

ご質問・ご意見	都の回答
<p>野川大沢調節池、野川第一・第二調節池に溢れた河川の水が入っていないときの利用方法について教えていただきたい。また、野川全体ではまだまだ調節地が足りないように思えるが、今後この流域においていくつぐらいの池を想定されているのか教えて下さい。</p>	<p>野川大沢調節地はテニスコートなどの運動場、野川第一第二調節池はビオトープや緑地帯として利用されています。</p> <p>野川大沢調節池は現在拡張(9万m³→15万8千m³)工事を行っています。その他にも新設は検討していますが、設置箇所等については検討中です。</p>
<p>付帯工のフェンス取替えでは、どのようなフェンスに取替えることを予定しているのか。</p> <p>また、上流側にも同じようなフェンスがあるが同時に取替えを行わないのか。</p>	<p>下流に設置されているアルミ製転落防止柵と同程度の仕様で設置することを検討しています。</p> <p>なお、付帯工事は、工事に伴い撤去する必要がある施設等の復旧を行うものであるため、現時点では上流部のフェンスの取替えは予定しておりません。</p>
<p>前回の説明会では、オオシマザクラに代わる新しい桜を植えることを検討しているとのことでしたが、今回の説明ではその対策は行わないということになっています。近い将来既存のオオシマザクラが寿命を迎えると思う。一方で、新しく生えてきた木は治水上問題になり得るため切るとの事ですが、今後10年、20年後の野川の環境をどのように作っていかうと考えていますか。</p>	<p>現在あるものが寿命でなくなることも自然の流れの一つと考え、現在の環境を大きな変化なく維持することが望ましいと判断いたしました。</p> <p>また、地元の皆様の取り組みにより、オオシマザクラから取り木が行われ、ビジターセンターの敷地内に植えられています。これにより、今のオオシマザクラが無くなった後も、オオシマザクラの記憶は野川と共に残るのではないかと考えています。</p>
<p>オオシマザクラの上流にコンクリート製の排水口やその付近にあるコンクリートブロックの下は魚の住処となっている。流下阻害にならないのであれば、是非残していただきたい。</p> <p>工事がどんどん進み、魚も逃げ場がない状態なので是非残していただきたい。</p>	<p>根固工や剪定を行う際には、河道内に重機を入れる必要があると考えていることから、支障となるコンクリートブロックは撤去する予定です。出来る限り丁寧に施工するようにいたします。</p>
<p>防災とみどりの両立を実現するためにとてもきめ細やかな検討をしていただき大変感謝している。まだ現場の工事が残っているので、防災とみどりは両立するという基本姿勢でよろしくお願ひしたいと思います。</p>	<p>これまでと同様に丁寧に施工していきます。</p>
<p>河道内への搬入路は、これまでと同じ小田急線の下で行うのか。</p> <p>また、これまでの工事で、重機の騒音や、工事関係者の喫煙マナーやゴミの問題など気になったこともあるので気を付けてもらいたい。</p>	<p>前回工事と同じ箇所の使用を考えております。ただし、植栽整備やオオシマザクラ周辺の工事を行う際は、右岸側(喜多見側)の河川管理用通路を工事車両が通ることも想定しています。</p> <p>騒音や振動、工事関係者のマナーについて、十分注意いたします。</p>